

令和4年度 第3回中なかいいネ！推進会議 議事録

日 時	令和5年2月27日（月）10時00分～12時00分
開催場所	中区役所7階702・703・704会議室
出席者	川上委員長、杉野委員、芦原委員、井上委員、藤平委員、依田委員、松澤委員、鈴木（敏）委員、丹羽委員、守屋委員、鈴木（聖）委員、長尾委員、金子委員、木村委員、渡邊委員、梁田委員、長谷川委員（代理：本間氏）、清水委員、内藤委員、辺見委員、森田委員、越川委員
欠席者	梅田委員、小島委員、鶴島委員、秋山委員、蕭委員、高橋委員、今野委員、緒方委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 令和4年度における各地区・団体の活動状況の共有について
議 事	<p>1 令和4年度における各地区・団体の活動状況の共有について</p> <p>議事1について、各委員に事前に記載を依頼した振り返りシートをもとに、各委員から発表。</p> <p><委員からの発表></p> <p>（杉野委員） ふれあい給食会は、2年間コロナで休止していたが、今年は12、13人が集まって実施している。秋からは本町小学校とテレビ電話での交流を実施し、地域と学校とのつながりをもてた。コロナにより高齢者とのつながりが減っているが、民生委員児童委員とも連携を取りつつ、地域の活動を少しずつ進めていきたい。</p> <p>（芦原委員） 警察とともに2か月に一度防犯パトロールをしている。「えん結び」として、高齢者、障害者、子どもが多文化共生する、安全で健康なまちを目指す。令和5年度は「元気いっぱい」の取組として、高齢者のエクササイズ体操や夏休み期間中のラジオ体操、視覚障害者や中学生と一緒にボウリング大会を実施する予定。</p> <p>（井上委員） 2本の柱に沿って10余りの事業を実施している。関内地区は、この3年間ほとんどの事業を実施した。中断すると再開には力がある。担当者が話し合い、可能な限りの感染対策を取って継続しようと決めた。活動者自身が自ら楽しんでおり、ロコミで参加者も増えている。</p> <p>（藤平委員） 「健康づくり」の取組として、夏休みにラジオ体操を実施した。1週間で延べ1,230名の参加があり、うち52パーセントが皆勤賞。ラジオ体操前と後に竹馬やミニバスケットなどを用意して子どもたちも遊べるようにしたことは「えん結び」にもつながるかもしれない。地域には外国籍の子どもが多く、なか国際交流ラウンジに依頼をして多言語のポスターを作成したり、小学校に持ち込んで参加を呼び掛けたりした。大勢の人に消毒や受付なども手伝ってもらうことで「えん（縁）結び」にもつながっていると思う。</p> <p>（依田委員） 石川打越地区は、現在10ほどの活動がある。そのうちの「ほっと石打」は、以前、中区にあった三者会談（民生委員児童委員・友愛活</p>

	<p>動・保健活動推進員)を前身として発足した見守り交流事業で、地域で何ができるのかという考えのもと、現在は、一般住宅の電球の交換や清掃、買い物への付き添いなどを行っている。</p>
(松澤委員)	<p>第2地区の「ふれあいサロン」は、今年度から通常どおり開催し、合計44回開催した。コロナ禍前はカラオケをしていたが、内容を変えて映画上映をしている。また、「第2地区元気づくり推進協議会」として、みはらしポンテの利用者らとともに「花いっぱい運動」を実施した。</p>
(鈴木敏夫委員)	<p>第3地区は古い住宅が多く、自治会町内会が多いため、町内会毎に実施している行事が多い。地区連合単位で60年やっている運動会は、各町内会にアンケートを取り、しばらくの間中止することに決まった。「第3地区元気づくりコンサート」は、600人ほどの来場がある目玉行事であり、次年度は規模を戻して実施したい。</p>
(藤本課長代読)	<p>第4地区北部も町内会毎に事業を行っている。地区の大イベントは運動会だが、地区連長や町内会長、会場となる小学校も開催するかどうか悩んだ。運動会の代替として、スポーツ推進委員による提案と協力のもと、ウォーキング大会を実施した。</p>
(丹羽委員)	<p>個々の町内会で茶話会やラジオ体操、餅つきをしている。地区として開催しているひとり暮らし高齢者食事は、従来から回数を減らし、地域ごとにグループ分けをしたうえで、お弁当を配付するやり方をとっている。スプリングコンサートは、4年ぶりに開催し、250人ほどの来場者があった。</p>
(守屋委員)	<p>令和4年度は、脱コロナでどうしていくか、切り替えの1年であったと思う。飲食を伴わずに済むよう、お昼に終わる工程で運動会を実施し、その後の町内行事に弾みがついた。1月末頃から親子で作るカレンダー教室や竹細工教室、パソコン教室を再開した。みんなで行っていいという気持ちを一つにまとめることが一番重要ではないか。</p>
(鈴木聖一委員)	<p>新本牧地区は、民生委員児童委員や地区社会福祉協議会の協力で、コロナ以前から続けているひとり暮らし高齢者食事業「みどり会」を継続できた。高齢者が1人で歩いて会場まで来ることが発足以来の目的で、来てくれた高齢者には体力測定を行った。えん結びと元気いっぱいの2つを1つの食事業で実施したという形になる。</p>
(蕭委員コメント代読)	<p>中区歯科医師会は、中区民に対する歯科診療の提供及び健康増進事業を行っており、今年度はハローよこはまの中で「元気フェスタ」という形で参加ができた。現在の課題としては、一般の区民に歯科医師会の事業が周知されにくいこと。</p>
(長尾委員)	<p>障害者団体として、コロナに対してどうしていいかというのが今年度の考えどころだった。23回目となるポレポレ祭りを実施した。祭りの一番の目的は、地域の人々や一般企業、商店の人たちとの交流や協力、(障害に関する)理解の普及啓発である。3年前より多くの</p>

	<p>団体が協力してくれ、交流につながったと考えている。</p>
(金子委員)	<p>中区おもちゃのドクターネットワークは、子どもたちの壊れたおもちゃやぬいぐるみをボランティアで修理している。子どもたちの喜ぶ姿が楽しくてやっている。対面での活動がやりにくくなったが、2本の柱の「えん結び」による困りごとの解決、そして「中区に住んでいてよかった」、「中なかいいネ！」につながればと思っている。</p>
(木村委員)	<p>なか国際交流ラウンジとしては、外国につながる若者が、埋地地区でラジオ体操の事務局のような役割を担っている。また、ウクライナ避難民の支援を避難先の第2地区のベイサイド新山下の人たちとともにやっている。地域の総合力で避難民が安心して暮らしていけるのは、中区ならではと感じている。地域ケアプラザとも連携しており、国際交流ラウンジが地域に出ていくきっかけになっている。</p>
(渡邊委員)	<p>小学生が「まち探検」の授業で地域ケアプラザに来たことをきっかけに、Zoomを使って認知症への理解を深める授業を開催した。また、「山元健康体操」やケアプラザのマスコットキャラクターをつくってくれた。介護予防の運動や花植えなどの事業を通じて高齢者と子どもが交流する機会ができた。対面できない環境での取組も進めたい。</p>
(梁田委員)	<p>民生委員児童委員は、昨年12月の一斉改選で171名が委嘱された。コロナ禍でもメッセージカードを入れたり電話をかけたしたりして、ひとり暮らし高齢者の安否確認をしている。民生委員が中心となって企画運営している給食会やサロンは多く、コロナ禍でも回数を減らさずに続ける地区もある。第4北部地区ではタクシー会社で認知症サポーター養成講座を開催した。地域によってできること、できないことがあると思うが、地域の方法にあったやり方で、無理なく楽しく活動していくことが大切。健康づくりでは体操などが取り入れやすいと思う。</p>
(本間氏)	<p>主任児童委員は、民生委員の中でも、児童福祉を専門に担当しており、区内では現在20名が活動している。小中学校と連携した見守りや児童虐待防止の啓蒙活動、子育てサロンや赤ちゃん教室への協力などを行っている。令和4年度は研修会や施設見学を行った。子育てサロンでは、母親たちの輪が広がっていくのが見られた。</p>
(清水委員)	<p>第4地区南部における保健活動推進員の取組として、健康づくり教室やポッチャを行った。密にならないように人数を半分にしたり開催時間を縮めたりしている。ポッチャは、今後地域の人にも楽しんでもらえるよう、研修を受け、練習を重ねている。コミュニケーションを取りながら、子どもから高齢者まで誰もが楽しめることが魅力である。</p>
(内藤委員)	<p>ヘルスマイトは、地域の中で食を中心とした健康づくりとして活動をしてきたが、コロナ禍では調理実習や試食を伴う対面型の活動ができず、資料を作って健康づくりの情報を伝える活動を行った。11月から活動を再開し、小学校や保育園で講座を実施した。質問すると</p>

子どもたちが挙手をして答えてくれるやりとりが楽しく、どう伝えるのがいいか、ヘルスマイト個々人で勉強したり考えたりすることにつながった。

(辺見委員) 青少年指導員として、以前は各小学校を回って行っていた「なかくっ子ウォーク」を、会場を野毛山動物園に変更して開催した。野毛山動物園をテーマとしたクイズを解き、時間内にゴールを目指すという内容のイベント。小学生とその保護者で 260 名ほどの参加があり、区内 12 地区いずれからも参加があった。

(森田委員) 中区スポーツ推進委員連絡協議会は 5 つの部会があり、女性部会のソフトバレーボール大会など、各部会で開催したスポーツイベントもあった。試合やイベントを通じて、選手同士や選手とスポーツ推進委員、スポーツ推進委員同士で交流することができる。他地区のスポーツ推進委員との活動や青少年指導員との合同研修会なども行った。

川上委員長による全体のまとめ。

<全体のまとめ>

- ・感染症対策を取った上で、できるだけ事業を止めずに継続してきたところと、地域の人たちの声などを踏まえて活動を止めたところと、2 つの大きなパターンがある。外での活動は比較的やりやすいが、室内での活動は、人数制限や時間の短縮、形を変えるなどの工夫や立ち止まりが必要だったと思う。
- ・自分たちが活動をしたくても、会場を貸してくれる相手が「まだ貸せない」となると、いくら「やりたい」と思ってもできず、他律的な部分がどうしてもある。来年度は、ウィズコロナで元に戻っていいのではないかというムードが強くなってきている。ぜひやり方を工夫しながら再開していってもらえればと思う。
- ・各地区・団体との連携やつながりが進んでいる事業も多くある。国際交流協会の埋地地区での取組は、外国につながる子どもたちと地域をつなぐ活動でうまく進んでいる形だと思われる。ほかの地区でも、協力要請してもらえるとよいのではないか。
- ・Zoom を使い、相談会や会議をしているという話があった。デジタルデバインドで参加できない人がいることは課題だが、対面とリモートを組み合わせるなど、工夫をしてもらえたらと思う。
- ・ニュースポーツ系はバリアフリースポーツとして、いろいろな人が同じ土俵で楽しめる工夫がなされており、広がりが見える。
- ・今回、各委員の皆さんに発表していただいたことで、お互いにそれぞれの活動の状況を知り、共有できたと思う。活動している団体に「どういうふうに工夫してやったか」を聞き、情報交換をしながら少しずつ前に進めるよう、取組を広げていってもらえたらと思う。
- ・計画の推進について、社会的な孤立防止のためのつながりづくりと健康づくりの両面で、各地区・団体に持ち帰って共有し、来年はどのように活動を復活させて広げていくかを話し合っていたきたい。

資 料 ・ 特記事項	1 資料 (1) 次第 (2) 座席表 (3) 中なかいいネ！推進会議委員名簿 (4) 中区生活困窮者自立支援制度出前講座のご案内 (5) 中なかいいネ！シンポジウムチラシ 2 特記事項 次回は、令和5年5月に開催予定。
------------------	---